

木下半治 きしたけ はながた 評論家、法學博士。明治二十二年五月九日兵庫縣生
れ（一九〇一）。大正十二年東京帝國大學法學部卒。文化學院、愛知大
學、東京教育大學各教授歴任。『讀賣新聞』論說委員を務めた。

譯書に、マルクス著『哲學の貧困』（淺野晃共譯、昭和五年一月）下
五日岩波書店「岩波文庫」、ヤンドレ・タルテイ著『フランス共産
黨獄中記』（昭和五年六月十八日春陽堂）、『巴里コミューン』（内
題「パリ・コミューン」昭和六年四月二十八日春陽堂）、ソレル著『暴
力論』全二冊（上巻・昭和八年八月五日、下巻・十一月二十日岩波書
店「岩波文庫」、マルクス著『フランスに於ける内亂』（昭和十年
六月十五日岩波書店「岩波文庫」、ヤンリ・アアブル著『昆蟲記』
（『7・昭和十年十月九日、8・十一月九日叢文閣）、ヤンドレ・シー
グフリード著『現代のアメリカ』（昭和十六年六月十五日青木書店）
等。著書に『日本國家主義運動史』（昭和十四年十月二十日慶應書
房）、『現代ナシヨナリズム辭典』（編、昭和二十六年六月二十日研
燈社「學生文庫」、『現代學問のすすめ』（合著・芳誠司編、昭和
二十九年十一月二十日大蔵出版株式会社）、『右翼テロ泥沼』（『こ
のく反動団体』（昭和二十五年十
二月）京都・法律文化社）等。

